

## つかあなこふん 「塚穴古墳」

- 指 定 千曲市指定史跡 昭和 50 年 12 月 20 日
- 所 在 地 千曲市大字稲荷山字篠山 2,433 番地
- 所 有 者 千曲市
- 概 要 円墳 指定面積：132 m<sup>2</sup>
- 時 代 古墳時代（6～7 世紀）
- 公 開 いつでも可

本古墳は、千曲市<sup>いなりやま</sup>稲荷山の北西標高 510m の山腹にある古墳で、<sup>しのやま</sup>篠山から東南東に伸びた支脈の突端近くに所在しています。その北側には<sup>こししょうぐんづかこふん</sup>越将軍塚古墳（長野市、長野県史跡）があります。

古墳は山腹に築造した円墳で、墳丘の裾が一部削り取られていますが、大部分は当初の墳丘を残しています。墳丘は直径 15m で、高さは谷側から 3m、山側から約 1 m あります。

内部構造は、真南に向けて開口する<sup>よこあなしきせきしつ</sup>横穴式石室で、<sup>げんしつ</sup>玄室は完存していますが、<sup>せんどうぶ</sup>羨道部の<sup>へいそく</sup>閉塞及び<sup>てんじょういし</sup>天井石を失っています。石室の規模は玄室の長さ 5m、<sup>おくへき</sup>奥壁幅 2.7m、<sup>げんもん</sup>玄門内側で 2.5m、高さ 2.5m、羨道幅 1.7m、高さ 1m、長さ 2.7m ありますが、当初は 4m 近くあったものと推定されます。奥壁は大石を 2 枚並べ、上に横長の石を積んで構成し、<sup>そくへき</sup>側壁は基部に横長の石を据えて 4 段積みにし、隙間に小さな石を詰めています。天井石は 5 枚で、玄室と羨道の間は西側から<sup>そでいし</sup>袖石を出し、さらにその上部に<sup>はりいし</sup>梁石を渡し、玄室と羨道を区画しています。その平面形からいえば羽子板状の両袖がある横穴式石室で、側壁の下部から上方に行くに従って、壁石を<sup>もちおく</sup>持送りになっています。

日頃、稲荷山まちづくり委員会の皆さんが、草刈等の管理にご苦労されています。

